

目指す学校像	安心・安全な環境のもと、すべての植水っ子が輝き、よりよく成長できる学校
--------	-------------------------------------

重点目標	1 学習の楽しさを感じながら、主体的に課題を解決する植水っ子の育成 2 すべての植水っ子が、のびのび・活発に活動できる環境の確保及びその維持 3 コミュニティスクール制度を核とした「地域・保護者・学校」の連携強化 4 常に学ぶ意欲をもち、仲間と磨き合うことができる職員の育成
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学校自己評価		年度評価		学校運営協議会による評価				
年度目標		年度評価		実施日令和7年2月12日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	【現状】 ○どのクラスも、子どもたちは落ち着いた環境の中で日々授業に取り組んでいる。 ○「R05 年度「さいたま市学力学習状況調査」平均正答率→3年～5年:「国語」→▼ 「算数」→▼ (▼:市の平均をマイナス3pt以上下回っている) 【課題】 ○学力の基礎的・基本的事項が確実に身につけていない子どもも多々見られる。 ○既習事項の確実な定着がなされていない。 ○「読解力」の向上のために、「母語(日本語)」についての知識(主語・述語、文法など)を身に付けさせなければならない。	・学習にふさわしい環境の整備 ・学力の基礎的・基本的事項の確実な定着	①学習前に、身の回りの整理整頓(机や椅子、ごみが落ちていないかなどの確認) ②正しい姿勢、正しい鉛筆の持ち方、丁寧な文字を書くことの徹底 ①子どもの現状を考慮した朝学習の実施→未定着箇所を重点的に ②既習事項(前年度以前に学習したことも含めて)の確実な定着のために繰り返し課題に取り組む ③日本語と外国語(G.S.など)を比較させることで、互いに似ている・異なる箇所に気づかせることで日本語の知識を深めさせる	○学校評価(児童)アンケート「学習」項目について、肯定的回答90%以上 ○「R06 さいたま市学力学習状況調査」平均正答率→3年～6年:「国語」→○ 「算数」→○ (○:市の平均を0pt以上3pt未満上回っている)	○学校評価(児童)アンケート「学習」項目の肯定的回答→81% ○「R06 さいたま市学力学習状況調査」→「国語」3年～6年→▼ 「算数」3年～5年→▼6年→▽ 【記号について】 「▽」→市の平均正答率を0.1pt以上3pt未満下回っている 「▼」→市の平均正答率を3pt以上下回っている	C	○学習にふさわしい態度の育成や環境づくり、それらの維持については、各職員同士声を掛け合い徹底していく。 ○教材研究に取り組み、子どもたちに「わかった・できた」喜びを多く味わうことができる授業を行う。 ○「朝学習」の時間を計画的に使って、子どもたちに学力の基礎的・基本的事項を確実に定着させる。そのために「繰り返し」を大切にする。 ○子どもたちに、すべての教科を通して、「母語」に対する関心を高めさせる。ことばの仕組みについて気付かせていく。そして、読解(長文・問題文)力の育成につなげていく。	・学校教育の中で、基礎・基本の定着は大切な事項であり、今一層その定着のために励んでいただき、心身ともに健全な子どもたちを育成していただきたいと思えます。 ・学力の基礎基本が身につけていない子どもが心配です。 ・学力を身に付けさせるためには、「繰り返し、繰り返し」以外にはない。 ・算数が苦手な理由として、読解力不足が考えられます。 ・「母語」の知識を深めさせる取組はとても大切なことであると感ずる。学校だけでなく、家庭への働きかけも必要なのではないか。
2	【現状】 ○どの子どもも毎日元気、明るく生活することができている。 ○各クラスでは、思ったことや考えたことなど何でも言い合える雰囲気醸成されている。 ○「R05 年度いじめ・不登校件数」→[い→6件/不→9件] ○全職員で事故や問題を「未然に防ぐ」 【課題】 ○学校に苦手意識をもつ子どももいる。 ○「目標」→「計画」→「実行」→「充実感/達成感」の流れを多く経験させる→自分に自信をもたせるために ○学校内での事故・ケガの件数→R05年度の保健室対応852件	・不登校件数の削減 ・いじめの未然防止及び早期発見、早期解決の徹底 ・学校施設の瑕疵による事故を未然に防ぐ ・子どもの事故・ケガの件数の削減	①登校渋りや連続して休む子どもについて、即校内で情報を共有し対応について話し合い保護者に連絡する ②学校生活全般(特に授業中に)で、互いを認め互いの考えを尊重する機会を設ける ③教師と子どものふれあいの時間を確保する(会議/行事などの精選)→互いの信頼関係を強固に ④生徒指導主任を中心に、生徒指導課題に即対応を徹底する ⑤毎月の生徒指導・教育相談部会で「いじめ・不登校」の現状を確認する。 ①毎月1回の施設の安全点検(体育施設は月2回)→子どもの目線で叩いてゆすって→要修繕箇所があった場合には即修繕を徹底する ②教科主任(体/図/家)による事故・ケガ防止のための研修を実施する ③学校全体で、安全な過ごし方について声掛けを徹底する(廊下歩行など)	○学校評価(児童)アンケート「学校は楽しい」項目について、肯定的回答90%以上 ○いじめ・不登校件数昨年度比30%減 ○施設の瑕疵による事故 ゼロ ○学校内での事故・ケガ件数30%減	○学校評価(児童)アンケート「学校は楽しい」項目の肯定的回答→94% ○「R06 年度いじめ・不登校件数」→[い→6件/不→7件](12/30現在) ○毎月の安全点検、その結果をもとに即修繕を行った。学校施設の瑕疵による事故・ケガはなし。 ○学校内での事件・ケガの件数656件(12/30現在)	B	○今年度のいじめ対応について、組織的な対応がしっかりできた。今後は学校生活の中で、他者を尊重しながら授業を行ったり、未然防止に重きを置いた学校の運営をしたりしていく。不登校については、各職員が協力合って、家庭連絡、朝の迎えをその都度行った。休みがちな子どもについては、即ケース会議を開き、事実を共有して全職員で対応に当たっていく必要がある(初期対応をしっかりと)。全職員の不登校に対する意識を高めていく。 ○夏季休業中に行った「授業中のけが防止研修」により、職員の未然防止及び先を予測する姿勢を高めることができたため次年度も、実施する。先を見通して、未然に事故・ケガを防ぐことができる力を高めさせていく。また、会議時などに単元が変わる際に各主任から事故・ケガの未然防止を呼びかけさせる。	○いじめ対応は、子どもについて情報共有をして組織的に対応することが大切である。 ○いじめや不登校について、なぜ起きるのか、どのように解明していくのか、職員全体で深堀しているのか? ○職員の業務効率を向上させることで、教師と子どもの人間関係が円滑になる。その結果、いじめや不登校が解消されるのでは? ○下校時、いつも元気に帰る姿が見られます。 ○担任が、登校に不安を抱える子どもを見届けたり、一緒に帰ったりすることで子どもに安心感を与えている。 ○どの親も、子どもたちには元気で楽しい学校生活を送ってほしいと願っている。 ○いじめを絶対悪として、見て見ぬふりをしない指導を。
3	【現状】 ○小中合同で「コミュニティ・スクール」を行っている。→熟議の結果、地域の特色を生かした地域連携事業を推進している(R05「防災フェア」の開催)。 ○「植水地区運動会」「青少年子どもまつり」、各地区の夏祭りなど多くの地域行事が行われており、多くの子どもたちが参加している。 【課題】 ○地域で目指す児童像について、積極的に発信して共有していかなければならない。	・子どもたちをよりよく変容させることで、地域・家庭からの学校に対する「信頼」を勝ち取る ・地域・家庭・学校が子どもたちの成長をあたたく見守る体制づくり	①基本的な生活習慣(挨拶、清掃、給食など)を徹底させる→「当たり前のことは当たり前」にできる子どもの育成 ②学力の基礎的・基本的事項の確実な定着 ①毎日学校HPの更新→家庭での話題づくりの一環として ②地域行事への積極的参加(教職員/子ども)	○学校評価(保護者)アンケート「明るく開かれた学校」項目について、肯定的回答90%以上 ○学校評価(保護者)アンケート「地域協働」項目について、肯定的回答90%以上	○学校評価(児童)アンケート「あいさつ」項目の肯定的回答→91% ○学校評価(児童)アンケート「清掃」項目の肯定的回答→96% ○学校評価(児童)アンケート「給食」項目の肯定的回答→87% ○校評価(保護者)アンケート「心を潤す4つの言葉」項目の肯定的回答→88% ○学校評価(保護者)アンケート「学習」項目の肯定的回答→85% ○HPに関して、毎日子どもたちの様子を更新したことで、家庭での話題づくりに役立ったと感じる。保護者からの感想もよく聞くことができた。 ○地域での行事「小平次翁219年祭(6/29)」「植水地区避難所訓練(6/30)」「水判土地区納涼盆踊り大会(8/6)」「中野林地区神輿(10/6)」「植水地区運動会(10/20)」「レッツジョイングリーン活動(11/17)」に、それぞれ職員数名で参加することができた。その中で、たくさん地域・保護者の方々と交流したことで、地域・保護者と学校との距離を縮めることができた。	B	○「当たり前」のことは当たり前でできる子どもを育成するために、引き続き指導・声かけを継続していく。 ○教師がやって見せて、子どもができたなら、それを見逃さずに大いに認める。 ○子どもたちをよりよく変容させることで、地域・家庭にその姿を認めてもらうことで、学校への信頼を高めていく。 ○今後も、HPを通して子どもたちの様子が保護者の方々に伝わるように、毎日更新していく。 ○「学校は地域・保護者無しでは成り立たない」との考えのもと、学校として積極的にかかわっていき、地域・保護者の方々と信頼関係をより確かなものにしていく。その信頼関係のもとで、子どもたちをよりよく変容させていく。	○先日の「植水地区青少年子どもまつり」や昨年の「植水地区運動会」では大変お世話になりました。運動会では、暑い中参加してくれた先生方には感動いたしました。今、学校と地域に良好な関係が生まれていることをここに感じます。 ○毎年の「レッツジョイングリーン活動」に子どもたちはほとんど参加していない。もっとアピールを。 ○多くの先生方が、地域行事に参加してくれれば、保護者・子どもが喜びでしょう。
4	【現状】 ○日々、何でも言える職場環境の中、子どものよりよい変容のために職員同士協力しながら職務に励んでいる。 【課題】 ○日々の業務に追われ、教師としての資質を高めるための自己研鑽に励むことが難しい	・全職員が生き生きと自己の教師としての資質を高めながら、自分の職務に励む	①職場では、何でも言える環境を常に維持する ②研修受講奨励キャリアnaviの活用→研修内容の共有(端末に研鑽フォルダ) ③子どものよりよい変容のために提案ができる職員の育成→気付いたことは互いに声掛け	○学校評価(教職員)アンケート「働きやすい職場」項目について、肯定的回答90%以上 ○研修などで学んだ成果を「研鑽フォルダ」に入れ、全職員で共有 ○職員の病休者ゼロ	○学校評価(教職員)アンケート「働きやすい職場」項目について、肯定的回答→39% ○職場内において、気付いたことは互いに声をかけ合う場面を多く見ることができたが、何か新しいことを提案し合う場面についてはもっとあってほしいと考える。 ○大きな仕事に対して、全職員で「割り算」の考えで分担して取り組むことができ、達成感・充実感「かけ算」の考えで実感することができた。	C	○引き続き、思ったことや考えたことを自由に表現、提案できる職場づくりに努めていく。 ○自らを高めるために研修の重要性を理解させ進んで取り組ませる。そして、研修から得られた成果を、全職員で共有していくことができる組織を作っていく。→その結果、組織全体が高まる。	○自分自身を高めるための研修、そして、その内容を全職員で共有することが大切と考える。 ○多忙な日々の中で、時間外に取り組んでいる職員の様子に敬意を感じます。働き方改革の推進が必要です。 ○諸問題解決のために、民生委員や自治会役員との協働を検討ください。

